令和７年度　都城市立上長飯小学校　学校運営協議会　実施報告

１　学校の概要

学校名	都城市立上長飯小学校		校長名	平部　至識	
学級数	２６学級	児童生徒数	６１５名	職員数	５０名
教　育 目　標	子どもに「今日も学校に来てよかった！」と感じさせる学校経営 ～よき伝統の継承・共通の壁の確立・保護者を感じる風土の醸成～				

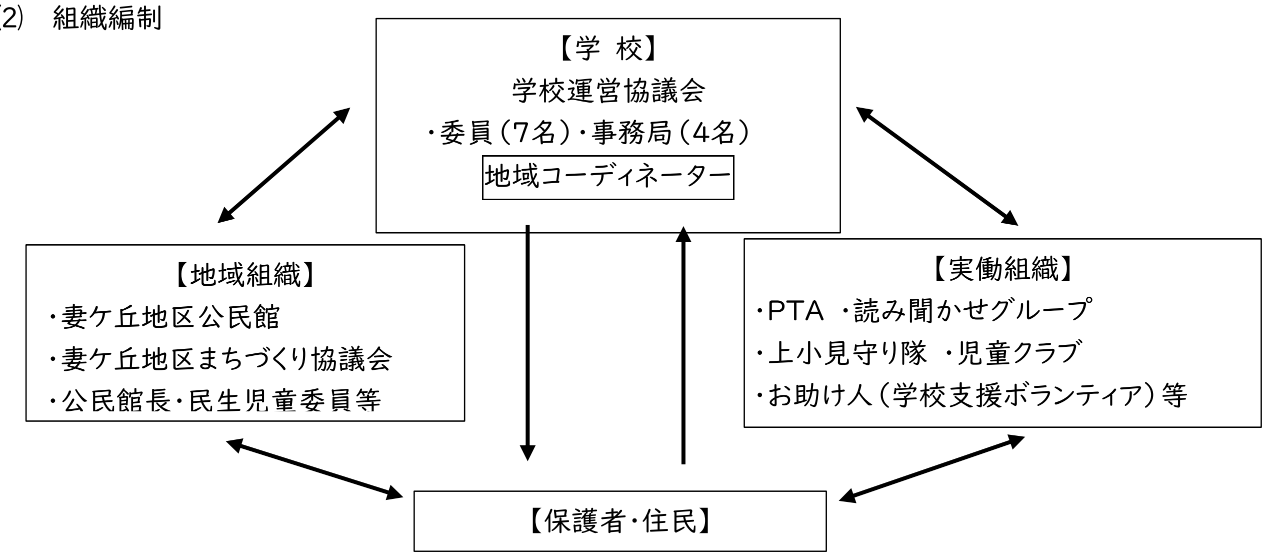
２　学校運営協議会に関わる組織

（1）委員（計7名）・事務局（計4名）

	No.	所属名（役職）	氏　名	備　考
学校運営協議会委員	1	都城市市議会議員・現PTA会長	岩元　弘樹	
	2	広原自治公民館長	釘田　重臣	
	3	放課後こども教室 スマイルふれんど代表	武藤　佐智子	副会長、地域CO
	4	読み聞かせボランティア ぽぽんたクラブ代表	山下　秀子	
	5	妻ケ丘地区社会福祉協議会理事	松尾　伊津子	会長
	6	元PTA常任委員	今村　美奈	
	7	主任児童委員	前川　智子	

	役　職	氏　名
事務局	校　長	平部　至識
	教　頭	日野　浩二
	主幹教諭	小山田　祥
	主事	森　泰士朗

（2）　組織編制



３　活動報告

月　日	主な活動及び内容
4月	・学校運営協議会委員選出
5月１２日	・第１回学校運営協議会（委嘱状交付、協議会の趣旨説明、役員選出、年間活動計画説明、学校経営方針説明）
5月２５日	・運動会参観
7月３０日	・第２回学校運営協議会【妻ケ丘地区合同開催】（各校の取組と課題発表、協議）
9月２４日	・第３回学校運営協議会（学校評価基本方針確認、アンケートに関する検討、学校評価手順の確認）
１１月２６日	・第４回学校運営協議会（アンケート結果の分析・考察、協議）
2月１２日	・第５回学校運営協議会（評価報告書検討、今年度の反省と次年度の方向性）

4　今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

５月：「キャリア教育について」

（委員）今の子ども達は何事も実際の経験が不足していることは否めない。体験を伴う学習、職業体験的な学習を本校でも行ってはどうか。

（校長）都城の産業などを支える身近な保護者が生き様を語るような会や体験を目的とした学習を計画している。上小流のキャリア教育を考えていきたい。

5　学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

⑴　学校支援活動

①　米作り活動

５年生は、毎年米作りの学習に取り組んでいる。本年度もＪＡ青年部と地域の方々で組織された「お助け人」から専門的な指導を受け、田植え、稲刈りを行った。収穫した米は、保護者や教職員に販売するとともに、「お助け人」の方にも感謝の手紙を添えて、一人一人に贈呈した。

【稲刈りの様子】

②　生活科「むかしから　つたわる　あそびを　たのしもう」

１年生は、地域の方に、昔から伝わる遊び（羽子板、けん玉、竹とんぼ、お手玉など）を教わったり、一緒に遊んだりする活動を行った（オープンスクールの時に実施）。楽しかったことや気付いたことを振り返り、遊びを教えてくださった方々にお礼の手紙を渡すことができた。

【昔の遊び体験の様子】

⑵　教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

○　５月の「熟議」のテーマに関連して、子どもたちにさまざまな体験活動をさせる目的で、地域の方々等の協力を得ながら、オープンスクールの内容を以下のような学習とした。

１年生：上小スマイルフレンドや地域の方に教わる「昔の遊び」
２年生：南九州大学学生との「親子クリスマスリース作り」
３年生：都城高専の先生による「スライム作り」
４年生：御池青少年自然の家の方による「防災教育」
５年生：マネーラボの講師による「金銭教育」
６年生：保護者から仕事への思いを聞く「親の生き方を学ぶ会」

特に６年生の「親の生き方を学ぶ会」では、１３名の親の仕事や生き方等を直接聞くことによって、一人でも多くの子どもが、将来、都城で生きることも選択肢の一つとして考えられるようになってほしいという思いや願いのもと、実施した。

【火災時の煙体験の様子】

○　毎日の登下校の見守りを行っている上小見守り隊や毎週月曜日の読み聞かせやブックトークなど学習支援ボランティア等の人材活用は、延べ２９９名（12/1 段階）であった。

【親の生き方を学ぶ会の様子】

⑶　地域貢献活動

見守り隊や民生児童委員の方々に手紙を書いて感謝の気持ちを伝える集会を委員会活動が主体となって実施したり、運動会で指導いただいた地元の踊りの先生に対しお礼の手紙を児童が自発的に作成したりするなどの活動を行った。

6　学校運営協議会の成果と課題　（○：成果　●：課題）

○　学校運営協議会の場での「熟議」のテーマ（キャリア教育、あいさつなど）を、学校運営に反映している。特に、「熟議」に関連したオープンスクールでは、多くの地域人材に触れることができ、児童にとって新たな発見や充実感を味わう契機となった。

●　学校運営協議会の目的や役割について、教職員や保護者、児童の認識が不十分である。

●　児童が委員会活動などから発信する地域貢献活動が不十分である。

7　次年度の方向性

○　「熟議」の時間を確保し、コミュニティ・スクールの機能を十分に生かしたい。

○　本協議会と地域学校協働活動本部がつながり、地域人材確保がスムーズになるような体制の確立について、妻ケ丘地区公民館等に相談、情報共有を図っていく。

○　教職員や児童、保護者に対し、学校運営協議会について積極的に周知を行う。